



ぼらんていあ通信

2月号

通巻 No.447

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2019年2月19日

連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内

TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: sagamiva@feel.ocn.ne.jp HPアドレス: http://sagamiva.info/



NPO法人相模原ボランティア協会の活動紹介!



ボランティア養成事業

障がいについての理解、人とのかかわり方を学ぶボランティア養成講座、また市内のボランティア団体と協働して各コース別ボランティア養成講座を開催。

春には、ボランティアを始めたいという方々向けに傾聴ボランティアなどの基礎を学ぶ入門講座などを開催している。

NPO法人相模原ボランティア協会は、国際障害者年の取組みが始まった1981年に結成され、約38年の歴史があります。
設立当初は、市内各地域のボランティア活動も盛んではなく、ボランティアの養成、組織化が急がれていました。現在は、社会の変化とともに、協会の役割も変わってきましたが、モットーである「助け合う心 やさしい心 ありがとうの心 つながる心」の思いは変わらず、地道な活動を続けています。協会での主な事業をご紹介します。

育てる つなぐ 情報発信事業

- ・月刊機関誌「ぼらんていあ通信」の発行
- ・季刊ボランティア情報ミニ雑誌「わくわく」の発行
- ・ホームページによる情報発信
- ・パネル展示企画への参加
- ・タウン紙への情報提供
- ・市民桜まつりまたは若葉まつりでのハンディキャブボランティア号パレード

ハンディキャブ運行事業

一人で外出するのが困難な方を、当協会所有の福祉車両やボランティアの自家用車を使って援助する事業で、道路運送法79条に基づく「自家用有償旅客運送事業者」として活動している。

当協会は、非常に少ない自己負担で利用いただけるようにしており、介護タクシー、行政によるあじさい号、一般の福祉有償運送などの中で、一定の役割を担っている。

楽しみふれ合う 交流事業

- ・ほかほかふれあいフェスタ
障がい者団体やボランティア団体の皆さんと実行委員会を組織し、障がいのある人もない人も、ともに楽しむ祭りとして、毎年秋に「ほかほかふれあいフェスタ」を開催。冬は街頭での障害者週間キャンペーンに参加。
- ・新春ボウリング大会
ボウリング場の厚意により、毎年、様々な障がいの皆さんとともに、ボウリング大会を行っている。

暮らしを支える

障がい者、高齢者を支援する事業

- ・個別ニーズに対応するボランティア派遣活動
通園・通学サポート、施設への手伝いなど
- ・地震に備える活動
家具転倒防止など地震対策の作業
- ・高齢者住まい探しサポーター活動
(社)かながわ住まい・まちづくり協会の依頼により、住まい探しの際のサポーター活動
- ・傾聴活動
話を聞いてもらいたいと思われる方のお宅を訪問して傾聴する活動
- ・就労支援
社会とのつながりに不安を覚えている人たちへの支援

ハンディキャブ運行事業のための 運転ボランティア大募集!

利用者さんの要望に応えるためには、運転ボランティアさんが不足しています。是非、ご協力をよろしくお願いします。



3月の記念日は？

小倉義男

3月6日、啓蟄(けいちつ)です。
二十四節気の1つ。太陽の黄経が345度の
時で、大地が暖まり冬眠をしていた虫が穴から
出てくる頃ということです。節分、桃の
節句、そして啓蟄。春
はだんだん暦の上でも
近づいているのですね。



小倉画

(o~o)

バザー品の提供のお願い

相模原ボランティア協会では、毎年、市民桜まつりで
福祉バザーに参加しています。ご家庭で不要な品が有り
ましたらご協力をお願いします。

(今年は市民若葉まつり：5月11日、12日)

古着を除き、どのようなものでも結構です。
ご連絡をお待ちしています。



*お問い合わせ

NPO法人相模原ボランティア協会

TEL/FAX 042-759-7982

活動報告

高齢者住まい探し相談会等事業連絡会議に参加

2月8日(金)午前10時から相模原市役所会議室で、(公
益社団法人)かながわ住まいまちづくり協会主催によ
り、『住まい探し相談会事業の連絡会議』が開催され
た。不動産関連団体、相模原市社会福祉協議会、相模原市
受託部局・福祉部局の方々と共に、当ボランティア協会
員も参加し、この事業の進捗報告および、意見交換会が
行われた。

協会員は、相談会にはサポーターとして参加し、相談
者がおひとりごとで不動産屋さんに行かれるのが不安な方
には付き添いボランティアもする。連絡会議に参加され
た小野理事から会議の様子をつかかった。

連絡会議に参加して

小野 明雄

実情をあまり知らないままの参加で失礼をしたとい
う思いですが、事例の報告を聴いて日頃から住まい探し
サポーターとして参加されている皆さんの役割を少し
理解できました。

相談会の中で「住まい」をまっかかけたいといういろな
課題を感じられるように、「この活動は」終活相談
だと言われたのが印象的でした。

サポーターに期待をかけるよりも感謝しました。

クイズで挑戦

魚鱗の漢字クイズです。問題と答えをかな。

- ① 鮎 ② 鯉 ③ 鯉 ④ 鱈 ⑤ 鱈 ⑥ 鮎
- ⑦ 鮎 ⑧ 鮎 ⑨ 鮎 ⑩ 鮎 ⑪ 鮎 ⑫ 鮎
- ⑬ 鮎 ⑭ 鮎 ⑮ 鮎



Twitter

ぼらんていあ通信版 ツイッターコーナー

トリー

18年前のボラ協総会の日に「初めまして」と言
ったクマさんみたいな人。今は一緒に食卓を囲ん
でいますが、「ご縁」だと思えます。その時たか
らこそ出会えた人、できたこと。良いものは大事に
しながら、置かれた場所で咲いて、「全ての経験は
栄養」と吸収していきたいと思っています。春には
人の動きがあり、気持ちにも変化が生まれます。
「ボランティアをしてみたい」ボラ協にもステキ
なご縁がたくさん集まりますように♡



ボランティア情報誌

わくわく 2019冬号が発行されました!



*あじさい連絡所に置いてありま
す。

- *座談会
ハンディキャップボランティア号
運転ボランティアで思っていること
- *らくしんポイント情報
子ども居場所のしくみ
- *障がい者の詩
なごみ、情報が満載です。

ボランティア活動グループ訪問記



「お母の会」を見学しよう



2月4日(月)立春。今年の立春は桜の花が散る頃の陽気になり、コートも上着も必要なし。今回の訪問先はけやき体育館2階教室で開かれている相視協(相模原市視覚障害者協会の編物サークル)つむぎの会」の定例会です。この会は相視協が会員の趣味活動として行っているコースト文芸スポーツなどの活動のひとりで、編物の好きな人たち(女性)が毎月1回、第1月曜日から10時から午後3時までけやき体育館に集まって編物の先生を囲んで思い思いの毛糸作品作りを楽しんでいます。

代表は蓬田隆子さんと、編物の先生は社会福祉協議会ボランティアセンターで紹介していただいた野口喜久子さんです。会員は全員で1名(相視協の他)先生はボランティア及びガイドです。5年前から活動を始めています。

野口さんは30年ほど前から自宅で編物を教えておられます。ボランティアセンターに編物でボランティア活動したい方にはないかと相談され、相視協の蓬田さんと、伴頼さんと、宇都木さんと出合い、初対面

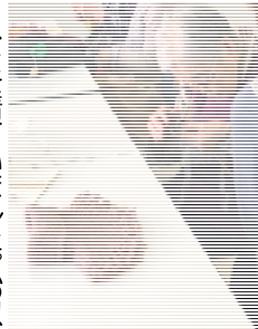


野口先生(手前)に糸のつなぎ方を教わりました。



で彼女たちの元気さ、前向きな姿勢、パワーにびっくりしたんです。皆さんの手弁当、あまり休憩も取らず作品作り頑張ります。年2回ほど同じお弁当をいただく予定です。ボランティアの高橋さんが教えてくださりました。

教室に伺ったときにはすでに皆さん自分の好みのものを棒針で編んでいます。江口さんはラメ入りのシルバーグレーのふわふわの毛糸玉一つで完成するミニマフラーを隣のガイドさんと手元を確認しても



今日仕上げます〜と

うしながら今日中「完成させたい」とはきっています。以前この会で自分で編んだクリーの暖かそうなベ

ストを着ていました。お似合いです。伴頼さんは小豆色系の段染め糸でセーターを編み、もう一つネックウォーマーの編みかけも持っていて、彼女いわく家で編んでいて目を落としたら、先入進めなくなったら別の作品を編み、次回まで直してもいいそうです。色が判らないのが残念とも言っていました。高橋さんとはチョロチョロ色の変わりの糸でセーターに挑戦。先生が前身頃を手伝ってこなすことができました。2月の障がい問題にむかえ、毎年障がい者の方たちの作品展が開かれます。その作品展の準備が盛りの目標の1つになっています。

活動の企画にむかえ、手芸サークル「糸々々」の話題が登場する予定です。糸々々もこの日は視力障がいの方、身体障がいの方ボランティア(私、三十尾さんの一人です)が同じ会場、第三会館で開催予定です。10歳年下でも編物好きです。



編み棒と指だけがモクモクと動いて

が、今は縫い物や工作など一日で仕上がるものを中心に作っています。

野口さんの言葉「一田一田といねいに編んだものだから大切に使用して。だからとても長持ちするんですよ。心をこめて作ったものだから心も身体も暖かくなるんですよ。新しい作品を作るときは先生が毛糸を持っていられてボランティアの高橋さんが先生とともに色選びをなされています。最後に糸をつなぐ方法、新しい技を覚えました。今度試してみようと思います。ありがとうございます。」

次回回は糸々々で合います。約束して別れました。今年は必ず作品展を見に行きますね。

(追記)当日欠席された代表の蓬田さんに電話で会の名前の由来をお聞きしたところ「相視協で話合っ、糸々々をいへんよからいひひひひの会がいいわね」となりました。

(小林・三十尾)

クイズの答え



- ⑤ まいご
- ⑥ あゆみ
- ⑦ ゆい
- ⑧ はだはだ
- ⑨ なみず
- ⑩ じやう
- ⑪ りんご
- ⑫ まっけ
- ⑬ しんじ
- ⑭ ひた
- ⑮ こころ

春講座のご案内
自分らしく生きるために
〜エンディングを考え、
これからを豊かに生きる〜

人生九十年時代のラスト三十年を豊かに生きるための大切さに気づき、自助・共助・公助について理解しながら、終活について学習し、自己決定していくための入門講座です。どうぞご参加ください。

日時：三月十九日(火)午後二時〜四時
場所：おださがプラザ(南区南台三の二十の二)
講師：一般社団法人安藤企画の安藤智文さん

終活とは自分の死を意識して、最後を迎えるに当たっての準備やそれまでの人生を振り返り、その証を総括することです。安藤智文さんは、「終活」のお手伝いをするために「安藤企画」を立ち上げました。「終活で豊かなセカンドライフを」をテーマに、身の回りの整理・住まいの終活・相続トラブルなど、日々、高齢者を対象とした総合的な相談・助言・援助活動を行っています。



内容：終活の大切さと概要を理解し、さらに共助としてのボランティア活動などへの理解を深める。
受講料：無料



対象：市内在住・在勤・在学の四十歳以上の方
定員：五十人(申し込み多数の場合は抽選。抽選に漏れた場合は、お知らせします。)
申込み：往復はがきにて、往信の欄に郵便番号、住所、氏名、電話番号(できれば携帯電話も)を記入し、返信の欄にご自分の住所氏名を記入(二月末日必着) 〒252-0236 相模原市中央区富士見六のの二十
あじさい会館内
相模原ボランティア協会講座係(同内容でメールにて申込みも可)
問合せ：相模原ボランティア協会 電話 042-759-7982 (担当者から1折返しお電話します)
Eメール：sagamiva@feel.ocn.ne.jp
主催：認定NPO法人 相模原ボランティア協会
共催：社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

今月の“ほっこりなぼらんていあ”は都合によりおやすみします。

相模原市で活躍する会社紹介



富岡弘文 税理士事務所
Tomioka Hirofumi Tax Accounting Office

所長 富岡 弘文さん(58歳)
〒252-0303 相模原市南区相模大野 8-7-7 悠々スクアール相模大野 2F
☎042-742-9916 FAX042-745-7630
Email: info@tomi-kaikei.jp
HP: http://www.tomi-kaikei.jp

事業内容

- ・ 税務、経営相談
- ・ 法人、個人事業の税務申告
- ・ 会社設立手続きなどのサポート、アドバイス
- ・ 相続対策相談、申告



富岡 弘文さん

「税理士事務所」と聞いて皆さんはどんなイメージを持たれるでしょうか。納税者である法人や事業主の税額を計算して、正しい申告をする。もちろん正解です。最近はTVや雑誌でも取り沙汰されることの多い、終活に通じる相続税の相談や、贈与、不動産の売買等に伴う税について、アドバイスや申告をする。これも正解。でも、経営やご家族のお財布の中のことまで教えて頂く立場にいる税理士の役割がそれだけでは勿体ない！というのが弊所の考え方です。よく、「税理士は家計や経営のかかりつけ医」という説明をしています。たとえば、今持っている財産はどれくらいなのか棚おろしをして、家族に万が一のことがあったら、どれくらいの税金がかかるか、どうしたらそれを節約できるかを一緒に考えたり。たとえば、会社の経営について、どこに問題があるのかを経営者と共に洗い出し、アイデア出しをしたり。悪いところ(病気)が見つかったらどんな薬が効くのか対策を練って処方箋を作る。そんなイメージです。

我が家はどうか？うちの会社はどうなんだろう。そんな疑問や不安を解決したり、和らげたりできる存在でありたいと思っています。

富岡会計は現所長の富岡弘文の亡父が昭和44年に創業し、今年で創立50周年です。富岡会計で働きながら税理士資格を得て、独立開業した方も居られますが、現在は5名の税理士、1名の税理士資格保有者、数名の税理士試験科目合格者を含む13名の体制です。所長は、これまでに各地で200回以上のセミナー講師を務めています。近年は相続などについて相談に来られる方が増えたため、基本的に土曜日も営業しております。

会社の事を相談する相手が欲しいと思う経営者さん、相続などの心配事「うちはどうかな？」を相談したい方、相模大野駅徒歩3分の事務所まで、ぜひお越しください。

イベント情報

第八回さがみスクラム写真展

「音が聞こえる」この世界で」

日時：二月二十一日(木)～二十四日(日)
午前十時～午後六時(二十一日は午後一時から開場、二十四日は午後四時終了です)
二十四日(日)午後二時から優秀作品の表彰式を行います。

場所：相模大野ギャラリー

(南区相模大野四の五の二〇二)

内容：

精神保健福祉の普及・啓発を目的とした精神障がいのある方企画の写真展を開催します。

申込：不要

問合せ先：さがみスクラム写真展 事務局
042・759・5117 (担当：永沼)

「視覚障がい者の理解と誘導入門講座」

2月24日(日) 13時半～16時半
南保健福祉センター2階 情報交換ルーム
3月24日(日) 13時半～16時半
緑区合同庁舎2階 高齢者交流室
4月21日(日) 13時半～16時半
あじさい会館3階 研修室

内容：視覚障がい者への接し方と外出する際の誘導の基本を学びます。

- ① 視覚障害とは？ ② 当事者の講話
- ③ 誘導の基本 ④ 弱視見え方体験
- ⑤ アイマスクを着けて誘導体験
- ⑥ 個別相談

対象：関心のある方どなたでも(定員30名)

参加費：200円(保険・資料代)

申込は：メール、電話またはFAXで

申込時必要事項：

氏名・住所・携帯電話かメールアドレス

申込先：

shiga-k223psn@docomo.ne.jp(工藤)
電話：080(5413)6909(工藤・問合せ可)

FAX：042(749)7830(肥田)

主催：相模原誘導グループ ささの会

後援：相模原市社会福祉協議会

精神保健福祉普及講演会

日時：三月二日(土)
午後一時半～三時半(開場午後一時)

場所：相模原市民会館第二大会議室

内容：「イギリスの先駆的な実践から学ぶ」リカバリーカレッジについて学ぼう

講師：佐々木理恵氏 (Paracetグループ リカバリーカレッジたちかわ)

「リカバリーカレッジ」とは・・・その人一人ひとりに起こるリカバリーについて学び、仲間と共に考え、これから先の人生を豊かに生きていくための方法を共同制作してゆく場。

主催

精神保健ボランティアグループびびき

定員：八十名、

参加費は無料、申込不要

問合せ先：中央ボランティアセンター

電話 042・786・6181

ボランティア協会3月の予定

日	時間	内容
4(月)	10時	講座検討委員会
6(水)	13時半	定例理事会
9(土)	13時	事務局委員会
16(土)	10時	HC委員会
19(火)	14時	春講座開講 おださがプラザ
23(土)	10時	講座実行委員会
25(月)	13時	ぼら通印刷
26(火)	13時	ぼら通発送

理事会報告

一 報告事項

- (一) 会長からの報告
- ・会員で元運営委員の篠田昭二氏が一月二十日に逝去された。(九十一歳)
- (二) ハンディキャブ委員会
- ・日本財団に申請していた新車助成は落選となり、現十号車を車検に出し、タイヤ、バッテリーを交換して継続使用する。
- ・運転手ポイント付与制度を本年四月以降導入予定。
- ・運転手宛ての「ぼら通」に案内文を同封する。
- (三) 総合企画委員会
- ・ハンディキャブ活動の在り方を検討したが、当面は現行の運用を続けることを認めることとなった。
- (四) 事務局委員会
- ・総会(五月十九日)までの準備日程を確認した。
- ・ボラ協正会員更新手続を「ぼら通」二月号で案内。
- ・三月一日から受付を開始。
- (五) 講座検討委員会
- ・三月十九日に終活をテーマとした講座を、おださがプラザで開催。
- (六) 傾聴委員会
- ・三月十二日に傾聴情報交換会を開催する。

二 審議事項

- (一) 総会議案書の印刷、製本は四月二十五日に実施する。
- (二) 若葉まつり(五月十一日～十二日)に福祉ブースを含め参加する。
- (三) 市の精神保健福祉審議会と社会福祉審議会・高齢者部会の委員を、鈴木理事から杉本理事に交代する。

三 その他

・けやき大会は今年度、来年度とも開催予定は無い。

市社協事業紹介 (その11)

2月に入り、梅の開花など春の便りが届きましたが、一方で寒暖の変化が激しい状況が続いています。ボランティア協会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。体調など崩されませんかよう、どうか自愛いただきたいと存じます。

さて、「みんなであそぼう」地域の力が育む人づくりのまちづくりの取り組みの「スローガン」と、市社協の活動や歴史などを紹介してきましたが、残り2回となりました。今号では市社協の窓口（市内に7か所あります）に寄せられる様々な困りごとの解決に取り組むコミュニティ・ソーシャルワーカー（以下CSWと表記します）の活動を紹介します。

30年前の窓口相談

私が市社協に就職したころ（約30年ほど前のことですが）、窓口で寄せられる相談は、障がいのある方の生活支援や社会参加の相談、高齢者のご家族からの介護相談が多かったと記憶しています。また、病气・怪我の治療費や失職等による生活費の相談も日常的に寄せられていました。

そのころの相談対応は、公的ホームヘルパー（当時は家庭奉仕員と言っていました）やふれあいサービスなどの市民参加型家事援助サービス、ボランティア協会員の皆さまや地区ボラさんとチームを組んで相談者の生活・介護支援や、通院・通学等の付添い等に取り組んだり、また、障がいのある方や高齢者家族の当事者団体の活動を支援し、団体の会員

同士の課題解決力を高めることで相互支援の基盤づくりに取り組んでいたと思います。当時は公的の制度が整備段階にあったため、サービスの供給量が少なく、良くも悪くも相談者、支援者が一体となり、課題に向き合い、解決方法を考えることが必要でした

最近の相談内容は？

高齢・障がい・児童など分野別の制度、サービスはこの20年充実の方向に進んでいますが、ここに来て新たな相談が増えています。一例を上げますと、

●8050問題＝高齢の親と引きこもりの子の同居世帯。親の年金、資産が生活費となっており、子は未就労、無収入。親亡き後の生活設計が立たない。子のことについて親や民生委員からの相談が多い。

●ゴミ屋敷や家人の問題行動による近隣トラブル＝本人の暮らし方と周辺住民の常識に乖離があり、時として摩擦が生じトラブルになる。トラブルの形は様々ですが、周辺の住民は火事や大声など大きな不安を抱えている。自治会や住民からの相談が多い。

いずれの相談も様々な原因と生活課題が絡み合っています。課題を一つ一つ抽出し、本人と周辺の関係性の整理をすること無しに対応方針は立てられません。課題のあるほとんどの世帯は地域社会から孤立傾向にあり、相談は課題を抱える本人から発信され難いた

め、既存の相談窓口が本人に直接アプローチすることはなかなかできません。

関係者等からの相談が市社協窓口に入ると、地区担当のCSWが現場への訪問により対応します。

どうやって？

市社協は自治会や民生委員と繋がり強い組織です。地区担当CSWは本人にアプローチする前に、相談者（多くは民生委員や関係する自治会員等）に状況を確認しながら、関係すると思われる専門機関と相談を開始します。並行して、対象世帯に接点の有る近隣住民、民生委員等の協力を得て本人との関係づくりを始めます。課題のある本人は、ほとんどの場合自己課題を認識していません。「困っている」感が薄いのです。こうした状況からの関係づくりには丁寧な時間が必要です。近隣住民からの期待を背負い、時には双方からの強い言葉を受け止めながら、課題解決の糸口を探します。

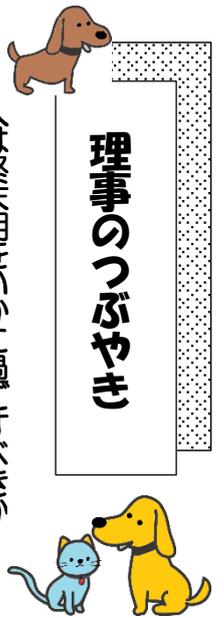
目指すもの!!

目指しているのは本人に寄り添いながら周囲の理解を得、見守り支援する環境を作ること。また、一つ一つの相談対応を重ねることから、関係機関のネットワークを強くしていくこと。一人の生活課題保有者の周辺から理解と支援の輪が地域に広がり、関係機関の総合力でセーフティネットを強化することがCSW活動の目標です。

理事のつづき

人は終末期をいかに過すべきか

吉留 勉



先月、親友や親族が相次いで亡くなった。自分と同じ歳や年下である。自分位の年齢になると最近はそのよきなよびがよくなるようになった。それで、人は終末期にはこのよびの口々を送るべきか考えるようになった。その中で親族のA(七十一歳で最近亡くなった)の最後の生活と終末期の生き方はとても考えさせられる。

Aは世間でよく言われる経済的に破綻して悲惨な老後を送った駄目老人の典型的な例ではないかと思う。そして人間の生き方としても絵に描いたようなとてもまぶしい終末の老後を送って人生を終えた例ではないかと思う。

昔、妻と離婚してAは両親が他界して空き家になっていた実家に北九州から移り住み一人暮らしを始めた。しかし野金(おのね)はほとんど無く、年金もわずかで常に生活に困窮していた。両親が亡くなった後、ある程度の土地と少額の預金が残った。Aと他の姉妹の計4人でその財産を相続することになった。公平に分配して相続する中で話が付いたが、世間でよくある話の通り、Aが何年か預金を管理していたため、それを使い込んだらしく、かなり減っていた。ほとんどの残って無くなるまで減らしたのか、それも正確には不明なままだった。Aの老後・終末は気の毒な事になった。

こともないが、同情出来るものではない。

生活はとても困窮していたが、息子もいるのに表面を取り繕い生活費の援助を請わず、ほとんど交流もなかった。息子は親の状態を理解していなかった。もう何年も一日中家で煙草を吸いながらテレビを見て過ごしてきた。体は心臓病と糖尿を患い、前立腺も患っていた。そしてある日、庭で一人であるときに脳梗塞を起こした。近所に来ていた工事屋さんが見つけて救急車を呼んで連れて病院に運ばれた。後遺症で右半身が不随になったが、いつまでも病院に居るわけにもいかず、まわりの無理だと言っただけで、本人が家に帰らなかつた。泣くので介護システムの利用と近くに住む妹(やはり脳梗塞で片足が不自由)が時々様子を見るというところまで遠回りして家へ暮らした。そして今度は夜、心筋梗塞で倒れ再度入院生活になった。悪いことこの入院中にすい臓がんが見つかり、末期で余命3カ月と言われ、しかもその直後に再度の脳梗塞を発症して亡くなった。

七十一歳だったので早いと言え、病気のオンパレードでかわいそうな終末だったが、述べたのはその生きざまである。金がないので入院、治療費など息子や兄弟に全て負担させ、あわや持つというのを保持していつか自分がまな放題である。入院中の世話を体の不自由な妹に任せ、言いたい放題で感謝の言葉は一言もない。息子は東京に単身赴任で、自分の妻の生活もあるが長らく父親の入院費や治療費で苦しんでいた。息子や妹が金がかかって苦しいという泣き喚ぶだけである。そういう状況です。臓がんで再発の脳梗塞を亡くなったのである。一人

の尊い命が亡くなったので本来なら皆が哀しむべきだが、ほっとしたのが正直なところである。

Aの終末を見てきて、この人間は何のためにこの世に生まれてきて、そして死んでいったのだろかと思つた。まわりの人間に多大な世話、迷惑や負担をかけたから感謝のかけらもなく、傲慢なものだ。終末期を過ごした。本人としては、なつた人でないと分からない苦しさ、絶望感があったのかも知れないが、自分の終末期にはこのような人生の終わり方はしたくないというふうに思つた。我々は終末期にはいずれ誰かの世話になるわけだがその時は感謝の気持ちを持ってはならないと思つた。

通夜、告別式を終え、今は骨だけが墓の中に納まっている。それから3週間たった。まわりの人間は又前のような平穏な生活に戻り、何事もなかったように生活を続けている。そのような人間は前からいなかったように。

つい先日の上出来事だが、もつあまの思ひ出にもなろう。



信じたわがほろつと

「信じたわがほろつと」発見

24億年前のカメの化石に骨肉腫

現代人のがんに類似



今から約4億4000万年前、現在のドイツにある地域にすんでいたカメの後足の骨には腫瘍があった。この古代のカメの腫瘍に関する論文によると、最初の恐竜が登場した二億紀には、すでに動物のDNAにはがんに関する変異があったことが示された。

*ナショナルジオグラフィックマガジンより



ボランティアさん募集！

高齢者施設での将棋ボランティア募集！

内容 将棋の対局相手（趣味で楽しむ程度の腕前）
 60代後半・認知症がありますが、将棋の対局には問題ありません

日時 月1回～、月曜日の午後以外であればいつでも可

場所 グループホーム まごころホーム淵野辺
 中央区淵野辺4-1-19-2



連絡・問い合わせ先

相模原ボランティア協会あじさい連絡所：電話 042(759)7982

相模原市社協 中央ボランティアセンター：電話 042(786)6181

会員登録のお願い

来年度の会員登録が三月一日から始まります。引き続き会員登録の更新をよろしくお願い致します。お手数ですが、あじさい連絡所にお出で下さるか、同封の郵便振込で会費を納入いただくことにより更新の手続きがスムーズです。

（住所等、登録内容に変更のある方は併せてご連絡下さい。）

事務局

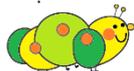
《今月のイラスト》

…大切な出会いの前には
丁寧なルージュー！《



投票はぜひお済ませください。

今年も、2019年度役員選挙があります。7氏が立候補されています。投票締め切りは今月末の2月28日です。投票箱は「あじさい連絡所」に設置しておりますので、会員の皆様は持参いただき、または郵送にて締め切り厳守をお願いいたします。FAXは不可で、28日消印有効です。



ご寄付をありがとうございました

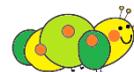
皆様のご寄付は当協会の運営に有効かつ大切に使用させていただきます。

<1月の寄付者>

1名のHC利用会員様からご寄付をいただきました。

<1月の寄付金>

800円でした。



計報

2000年と翌01年、当協会で講座委員長を歴任される等活躍された篠田昭二さんが、過日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

1月下旬定期健診でA型インフルエンザといわれました。（調子は悪かったが）ひととりの診察が終わり、薬局へ。渡された薬は1回分（2錠）の飲み薬と2回分の解熱剤でした。その1回分の薬は最近発売されているインフルザ錠です。

今は元気で。皆様インフルエンザにならないうちを祈ります。

（勝）